

## ≪岩槻はるかぜ特別支援学校の活性化・特色化方針≫

<b>種別</b>	知的障害	<b>学部・学科</b>	小学部・中学部・高等部	<b>R6.5.1 児童・生徒数</b>	(男) 130 (女) 78	計 208
<b>アクセス</b>	JR宇都宮線 蓮田駅東口より徒歩約 20 分					
<b>&lt;教育課程等&gt;</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育目標に基づいた小学部・中学部・高等部 12 年間を見通した段階的な教育課程編制</li> <li>○ 自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するための学習領域である「自立活動」の時間における指導を日課表に位置づけて実施</li> <li>○ 「わかった」が実感できる、大型提示装置等を活用した視覚支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 小学部 一般学級と重複学級の 2 種類の課程 クラスを越えた課題別グループ編成での学習有。</li> <li>◆ 中学部 一般学級と重複学級の 2 種類の課程 クラスを越えた課題別グループ編成での学習有。</li> <li>◆ 高等部 一般学級（社会・総合）重複学級（生活）3 つの教育課程を編成                 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 年生は総合課程と生活課程でクラスを越えた課題別グループ編成での学習有。</li> <li>2・3 年生は 3 つの教育課程で学年を超えた課題別グループ編成での学習有。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>						
<b>&lt;学校行事・部活動&gt;</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校外学習：遠足（小・中）、社会体験学習（小・中・高）、職場見学（高）</li> <li>○ 校外宿泊学習（小 4・小 5・中 2・高 2）</li> <li>○ 修学旅行（小 6・中 3・高 3） 令和 5 年度は高 3 修学旅行は実施せず。</li> <li>○ 運動会（5 月・小・中・高）</li> <li>○ 文化祭（1 1 月・一般公開日には、児童生徒の発表・展示・作業製品販売を実施）</li> <li>○ 高等部持久走大会（1 2 月 上尾運動公園）</li> <li>○ 高等部部活動（週 1 回。希望制）</li> </ul>						
<b>&lt;家庭・地域との連携&gt;</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校間交流（小・中・高）</li> <li>○ 家庭との連携             <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観 学校公開</li> </ul> </li> <li>○ 地域等との連携             <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の開催(コミュニティ・スクール)</li> <li>ボランティア養成講座の開催（年 2 回）</li> </ul> </li> </ul> <p>開校から 2 年目を迎え、地域の方に知ってもらう機会を広げる、ともに活動をする、ということを大切に連携を進めています。</p>						
<b>&lt;進路&gt;</b>						
<p>卒業後に自立した生活を営む力を身に付けられるよう、各学部において段階的な指導を行っています。高等部では 1 年生から産業現場等における実習を行い、卒業後の進路に直結する実践的な力を養います。また、生徒・保護者が適切な進路先を選択できるように関係機関や地域の福祉事業所、各企業と連携して情報提供等を行っています。</p> <p><b>【卒業生の進路状況】</b></p> <p>令和 6 年 3 月 第 1 期卒業生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業生 18 名</li> <li>○進路先内訳             <ul style="list-style-type: none"> <li>生活介護（5 名） 自立訓練（1 名） 就労移行支援（1 名） 就労継続支援 B 型（10 名）</li> <li>共同生活援助（1 名）</li> </ul> </li> </ul>						

本校はさいたま市岩槻区馬込の地に開校した知的障害のある児童生徒のための特別支援学校です。

【学校教育目標】

生き生きと生活する力をたくわえ、社会の変化に対応できる児童生徒の育成

社会全体の変化や世界を揺るがすようないろいろな出来事が起こり、予測することが困難な時代とも言われています。そのような中、知的障害のある児童生徒にとっても、支援を受けつつ、その子なりに社会の変化に対応していく必要があります。

人生の主人公として生き生きと生活できる知識・技能等の獲得や、その学び方、生き方ができる力を身に付けていくことを通して、それが実現できると考えます。

【学部教育目標】

	小学部	中学部	高等部
は	集団を意識して楽しく運動する習慣を身につける。	健康に関心をもち、運動する習慣を身につける	健康の維持を意識して運動する意欲を身につける。
る	ルールを意識して、人と仲良く活動できる。	ルールを守り、人と協力して行動できる。	ルールを守り、人と協調して行動できる。
か	生活に必要な基本的習慣や知識・技能を身につけ、支援を受けながらできることを増やす。	生活に必要な習慣や知識・技能を身につけ、自分でできることを増やす。	社会生活に必要な習慣や知識・技能を身につけ、主体的にできることを増やす。
ぜ	興味関心の幅を広げ、好きなことを見つける。	興味関心の幅を広げ、好きなことを増やす。	趣味や余暇活動を充実させて、生活を豊かにする。

【目指す児童生徒像】

- は はつらつとした人 心身を健康に保ち、体力の維持向上ができる
- る ルールを守る人 社会のルールを学び、行動できる
- か 考える人 支援を受けながらも自分で考え、行動できる
- ぜ 全力を尽くす人 自分の持てる力を最大限発揮できる

【校章について】

野山は、学校周辺の、馬込地区の美しい里山を  
 川は、校区を流れる綾瀬川や元荒川を  
 3本の春風は、小学部・中学部・高等部の児童生徒が空に羽ばたいていく  
 様子を図式化したものです。  
 地域とともに歩み、社会参加に向けてどの子も育ててほしい、  
 そのような思いがこもっています。

